TS（トータル・サティスファクション）を目指して　M5

「体験知」・「他と違う」・「まず動き始める」

校長室担当より

“Sustainability First”という企業理念の下で、ヘルスケア、バイオ燃料などの事業を展開するユーグレナという会社を起業された出雲充さんを御存知でしょうか。ごく普通の家庭に育った出雲さんは、サラリーマンになるか公務員になるかの２択で考えていましたが、高校時代に世界の飢餓問題の解決を目指そうという思いから、大学１年生の時にバングラデシュへ。ところが現地には食べ物に困っている人などいなくて、目に入ったのは、誰も食べない国連マークのついた乾パンの缶の山。中身は捨てられ、水を溜めるのに缶だけ使われている状況がありました。世界の食糧問題の本質に、ここで彼は自分の肌で触れたのでした。

その後、帰国した彼は栄養価の高い食品を求めて、ミドリムシに行きつき、起業へ。「ビジネスプランなんてものは何もなかった。ただただ、本当にショックだったんです。」起業した彼は、後のインタビューでこう言っています。

「検討したり考えたりすることは、やらない理由をあれこれ探していくことなんです。やらないほうがいいと納得させるプロセスのことなんです。だからこれでは新しいことは絶対にできない。考えるのは自由ですが、考えたところで思うようにはならないんです。プラン通りにもならない。でも想定しなかったことも起こる。いろんな人が助けてくれました。動き出した人を助けてくれる人は、世の中にたくさんいます。結局、やるかやらない、なんです。でもやってみたら何とかなるんです。（中略）世の中、逆だと思うんですよ。必要になるのは『他と違う』ということ。そして、『調べる前に動き始めること』なんです。」

今までの教員は、学校という限られた環境の中でしか経験知が得られていませんでしたし、伝えられませんでした。しかし今からはそのような環境だけに生徒を閉じ込めておくことはできません。ともすれば実際の経験ではなく、従来の教育の中で教科書等の書籍を通じてしか学べなかった私たちを優に超えていく生徒を創り出す必要があります。豊富な「社会」という資源を活用して、“ホンモノの”多様な視点や考え方にも

っと触れさせて、行動したものにしか得られない体験知や経験知を身につけさせていくことがその手法となります。そして、助けてくれる人を頼りながらでもとにかく前に進み、失敗を恐れない勇気も求められます。新しい時代の教育はこのようにして、深化していきます。ソニーとHondaがモビリティ分野での提携を進めるなど、現在は様々な異業種の企業が業務提携をしています。学校もこれに倣って様々な社会資源と提携していく時代に入ったと感じています。学校から外へ学びを求めて出ていく時代はもうそこまで来ていて、学校そのものもあり方を問われています。今までのように大学経由であっても、そうでなくても、彼らが得る体験知や経験知を基に、自分なりの武器をその都度拾いながら、自分の豊かな人生を作り上げていく時代が来ているのです。他にやっている例がない中で変化することに不安はあるでしょうが、この学校で他とは異なることに動き始める姿を、「新しいことをまずはやってみる」というワクワク感をもちながら示していきしょう、一緒に。（令和６年６月１８日）

４月１日に、先生方へお願いしたこと

1　人間の生き方のモデルを姿で示していただく
2　トータル・サティスファクションの実現
3　対話とパートナーシップに基づく行動
4　全教職員で全校生徒を見守るチームへ